



## DuMA ニュースレター

2025年8月18日

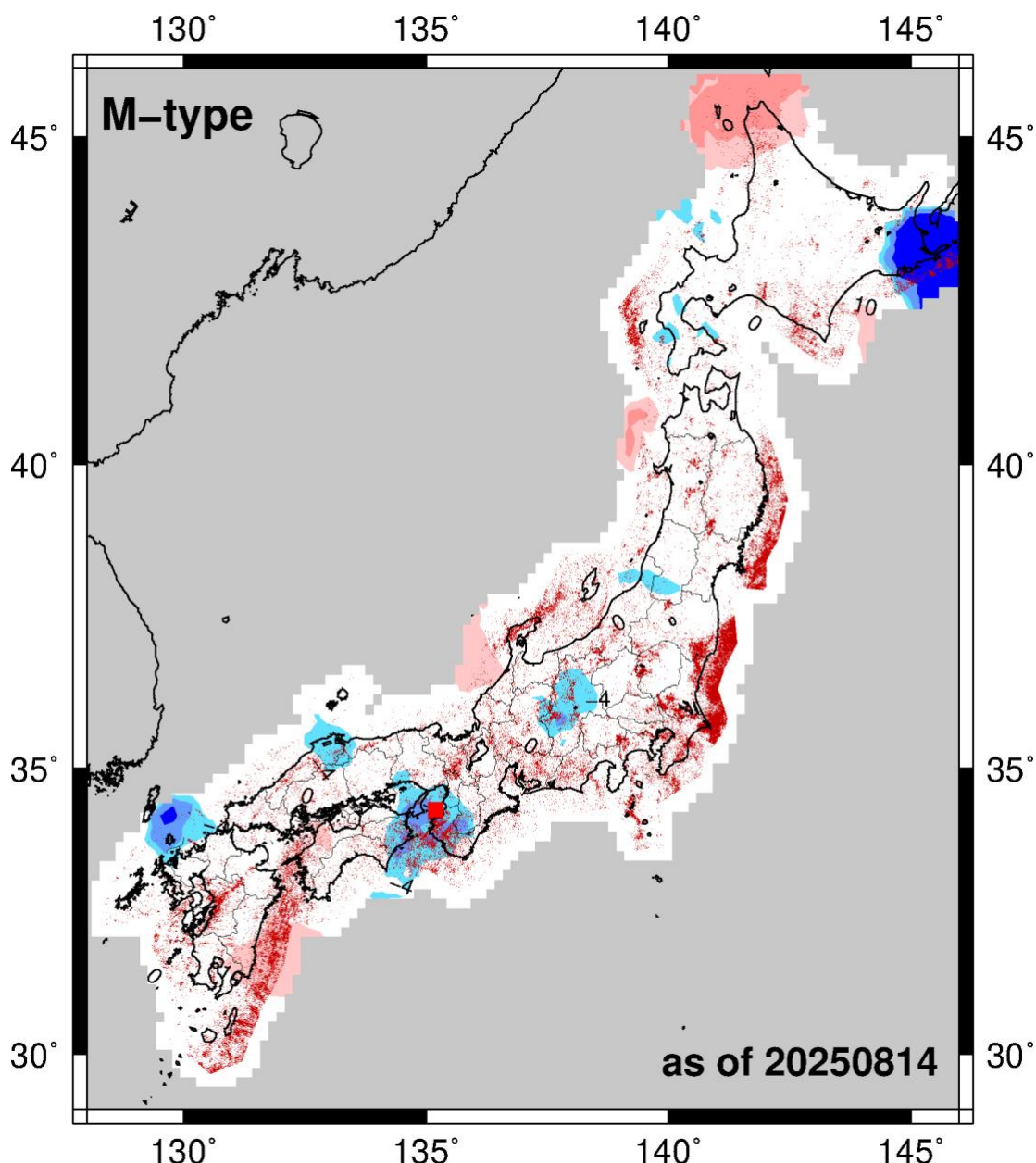
トカラ列島の群発地震活動はまだ続いていますが、かなり活動が低下してきました。また8月14日には静岡県中部でマグニチュード(M)3.9という規模は小さいですが、震度3を観測する地震が発生しました。この地域はかつての想定東海地震の震源域で、実は関東地方等に比べて、普段は極めて地震活動が低調な地域なのです。この規模の地震は6年ぶりの発生でした。

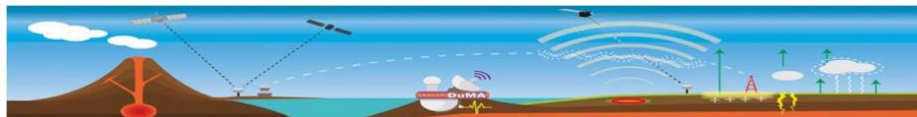
静岡は東海地震の震源域という事から、地震が多いのではという印象をお持ちの方が多いかと思いますが、静岡市で有感となる地震は年に数回程度です。それに対し、東京都区部で有感となる地震は年に30回程度発生しているのです。静岡市は普段は極めて有感地震が少ない地域なのです。

同じく14日には茨城県沖で M5.2、震度4の地震、17日には日向灘沖を震源とする M5.8、震度4を観測する地震が発生しました。日向灘はかなり地震活動が高まった状態が続いています。

## 日本列島陸域の地下天気図®

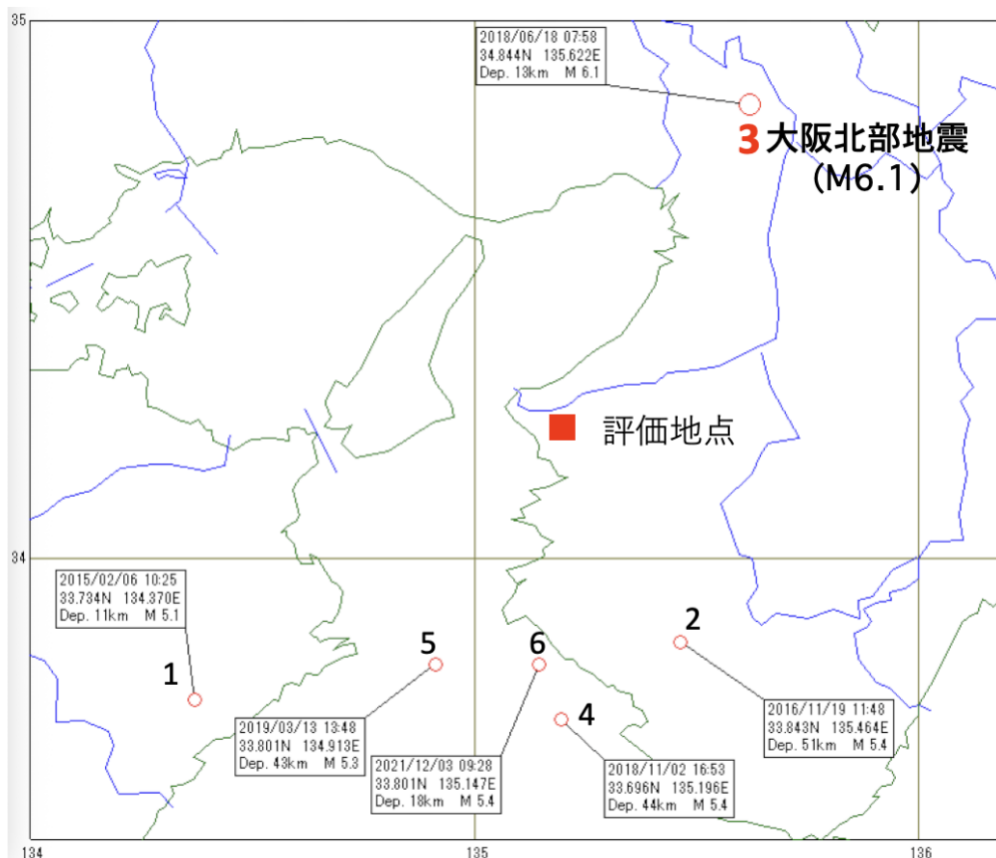
7月21日のニュースレターに続き、日本列島の主に陸域に特化した地下天気図解析です。今週は8月14日時点の M タイプの地下天気図をお示しします。



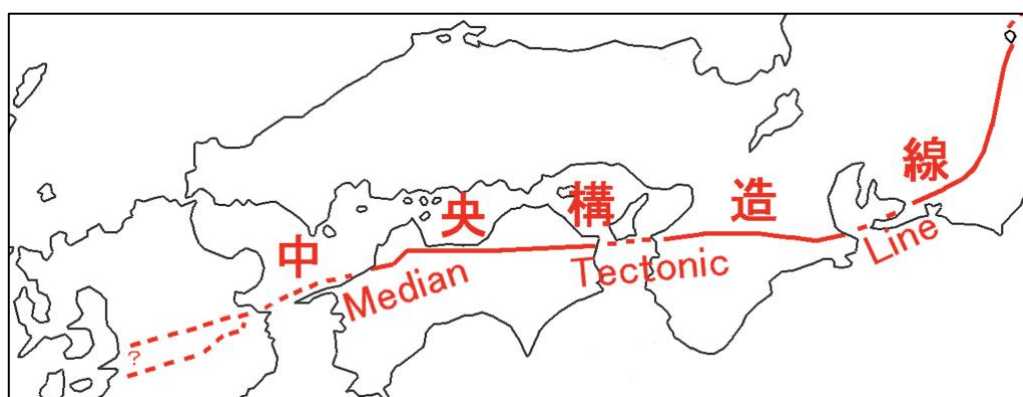


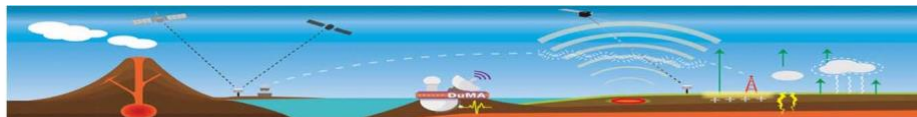
これまで言及してきました中国地方の地震活動静穏化は鳥取県にまだ残っていますが、静穏化は明らかに紀伊半島およびその周辺地域に移ってきました。8月4日のニュースレターでは、東海地方以西の地下天気図をお示ししていますが、その解析でも紀伊半島周辺に静穏化領域が移動している事が見てとれます。

今週号では、和歌山市■における RTM 時間変化グラフをお示ししたいと思います。まず、次にお示しする図は2014年から2025年8月までに発生したマグニチュード5以上の地震の震央です。この期間で最大の地震は2018年に発生した大阪北部地震(M6.1)です。この時期には、紀伊水道でスロースリップが発生していた事も確認されていたのです。

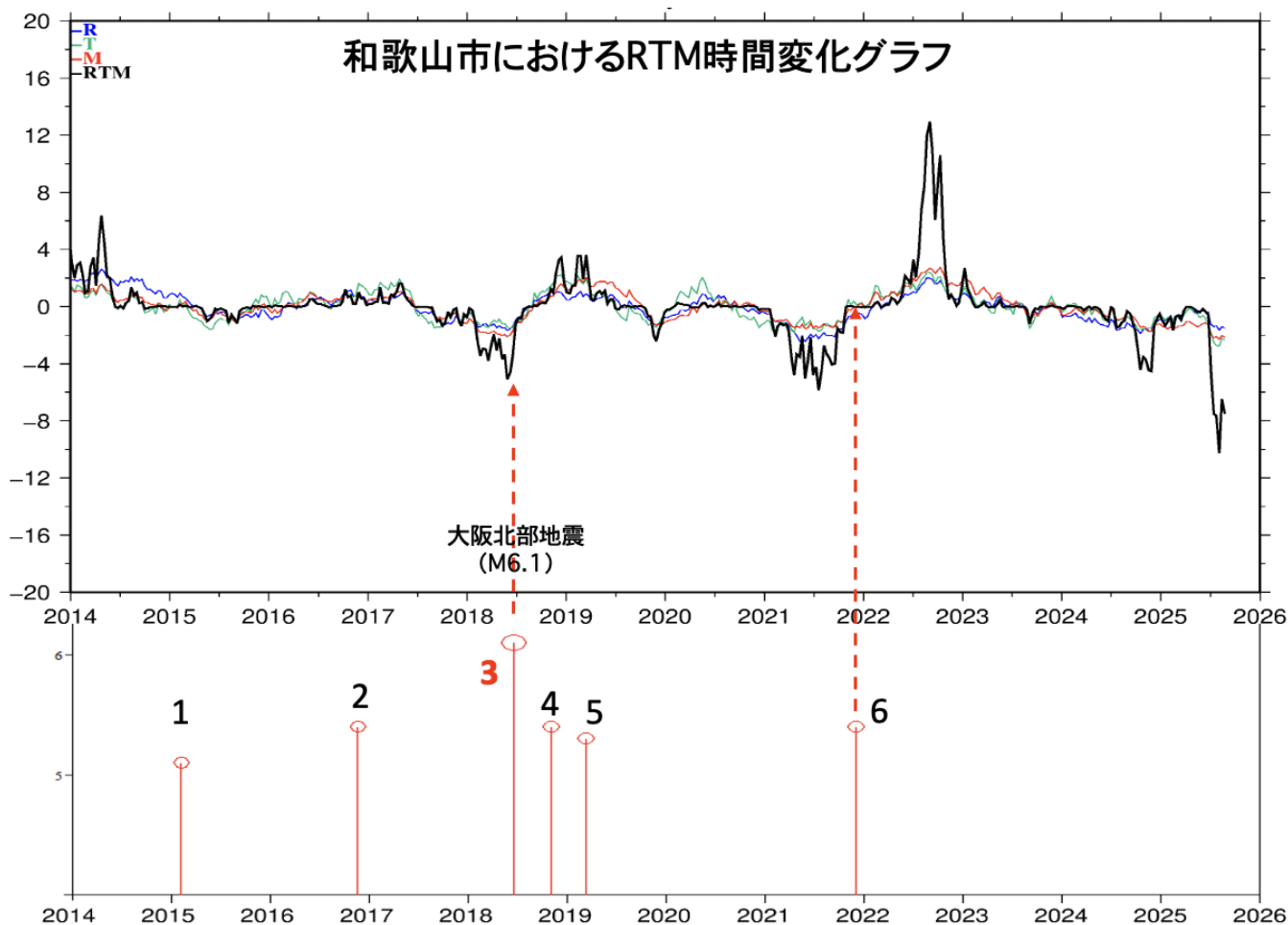


またこの地域には日本で最大級の地質構造線である、「中央構造線」が通過しています。この構造線沿いに紀の川や吉野川が流れており、この窪んだ地形(谷地形)を利用して京奈和道や徳島道、松山道という高速道路が建設されているのです。





次にお示しするグラフが和歌山市■(評価地点)におけるRTM 時間変化グラフとなります。2018年の静穏化が最大となった時に大阪北部地震が発生しており、この時は同時に紀伊水道でマグニチュード7クラスに相当するスロースリップ(ゆっくり地震)が発生していました。また2021年の静穏化の直後には6で示した M5. 4の地震が発生しています。



今回の静穏化が今後どのような推移を示すか現時点では不明ですが、近傍でマグニチュード6クラスの地震発生の可能性が高まっているとも判断できます。

ちなみに山陰地方の静穏化はかなり解消していますので、この地域でのマグニチュード6クラスはいつ発生してもおかしくない状況と考えています。